# SKET DANCE！

古泉　楓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＳＫＥＴ　ＤＡＮＣＥ！

【Ｎコード】
Ｎ１６５９Ｙ

【作者名】
古泉　楓

【あらすじ】
何か新作を書きたくて、無理やり他のを終わらせたけど、大丈夫かな？
まぁ、いいや。実は新作って、これ以外にももう一つあるんだよね。探してみてちょ。
開盟学園に転校してきた、高校二年生の和泉希は、自分を変えたいと願っており・・・

## 第1話（前書き）

はい、どうも。新作です。ヒメコとキャプテン、可愛いです。

# 第1話

さぁ、第一回目ということで、短いです！　すいません！

「えー。そんじゃ、一回目ってことで、定番の転校生だ。いいか。一回しかいわねーぞ。ちゃんと聞いとけよ。んじゃ、転校生。自己紹介」

「え？　あ、はい。えーと、和泉希です。よろしくお願いします」

深々とお辞儀をした。

「いいかお前ら。和泉希だぞ。和泉希。ちゃんと覚えておけよ」

「せんせー、3回言ってます」

「和泉ー。お前の席は、あそこのアカツノチリ毛虫の横な」

え〝・・・。誰？　あ、もしかして、あの赤いポップマンの帽子をかぶった人のこと？

と、ここで横を見てみると、そうだと言わんばかりに頷いているオ

ッサンがいた。

んで、昼休み。

「おい、転校生」

が、そこには既に和泉の姿はなかった。

「「「・・・」」」

「スイッチ」

『わかっている』

～屋上～

「ふ～。良い風～」

んーっと背伸びしながら、風に当たっていた。

「ふぅ。何にしても、これで午前終了♪　おっひる～おっひる～」

傍らにあったランチパックに手を伸ばした所で、ドアのところに3人組が立っているのが目にとまった。

「・・・誰？」

「おお。さすがスイッチ。やっぱスゲーぜ、お前」

『俺の情報網をなめるな』

「別に誰もなめとらんよ？　寧ろ、褒めとるやん」

「おい、転校生！」

「な、何よ」

「急にどっか行くなよ！　探したじゃねーか！」

近づいてきて何を言い出すのかと思えば、そんなことを言い出した。

「何よ。私がどこに行こうと私の勝手でしょ？　アンタに指図される覚えはないよ？」

『まぁ、その通りだな』

「認めるなよ！」

「・・・。何？　漫才でもすんの？　私、１人で静かにお昼ご飯を食べていんだけど」

「なんやと！　折角人が転校早々ボッチになったら可哀想や思て探してこうして来とるのに、なんや、その言い草！」

「・・・。頼んでないし、頼む気もない」

きっぱりと言い放つ和泉。

『・・・。和泉希、元桜花中学出身。元々の出身は大阪。ヒメコと同じ小学校にいた』

「え？　そうなん？　そー言われれば、見たことあるような気ーも

するんやけど・・・」

そんなことまで・・・。さすがＳＫＥＴ団。それなら・・・。

「へぇ。そんだけ。はぁ、私のことそれでわかったつもり？」

カチン。

『Ｏ型、１０月３０日生れの蠍座。和泉グループのＣＥＯ兼代表取締役兼会長』

「・・・」

『小・中と告白されは断っている。高校は・・・』

！！！

「わかった・・・。もう、いい。さすがだね、ＳＫＥＴ団。噂以上だよ」

「噂・・・？」

「ああ。いや、こっちの話。・・・うん、いいかな」

3人の頭に”？”が浮かんだ。

「ねぇ、新入部員探してる？」

「え？　ああ。まぁな」

「私、入部します」

「え・・・」

「「『ええー！？』」」

## 第1話（後書き）

さぁ、短いといったくせに思ったより長いです。下手打ったら、もっといきそうでした。

## 第2話

「ほ、ほんで？　どーしてスケット団に入ろうと思たんや？」

「え？　面白そうだから」

「心外だな。これでも俺達は活動してるんだぜ？」

「例えば？」

「・・・い、依頼を解決したり」

「他には？」

「依頼を解決したり・・・」

「それしかないの！？」

「そりゃ基本はそうだろ！？」

逆ギレ。

「ま、まぁまぁ。お茶でもどないでっか？　さっきな、ヤバ沢さんがダージリンティーを持ってきてくれたねん」

「しかし、どうしてこの小説の作者はチャレンジャーなんだろう」

「ん？　何の話だ？」

「いや、何でもない」

『ところで、第二話とかなっているが、実際は登場人物の紹介だぞ（笑）』

「何でだよ！」

藤崎ユウスケ。通称：ボッスン。スケット団部長にして、本編の主人公兼原作主人公。顔芸が得意だったり、折り紙が得意だったりする、殆んど主人公とは思えないような特技を持つ、一見主人公っぽくない人。因みに、集中が得意だったりもする。

「なんだよ、この説明！」

「なんや、ええやん。別に」

鬼塚一愛。読みは「おにづかひめ」。可愛い名前に反して性格は凶暴（笑）。本当は活発。大阪にいた時からフィールドホッケーをしており、中学までずっとやっていた。あだ名は鬼姫。現在はヒメコ。スケット団唯一の武闘派。不思議な味のするペロチポップキャンディが好物。関西弁でツッコミが得意なメインヒロイン。

本作品ではヒロイン。

「なんや、アタシは思ったより普通な紹介やな。ほんなら、スイッチはどう紹介されるんや？」

『俺か？　そうだな・・・』

笛吹一義。あだ名はスイッチ。パソコンが得意なオタクで、弟がいた。無口で、弟が作ったパソコンソフト、「音声合成ソフト」を通してでしか話すことしかできない。変人っぽいが、実は結構モテる。

「みじか！　何でやねん！　何でそんな短いん？　アタシは４行やったのに！」

「いいじゃねーか。なげーんだからよー」

『ところで、和泉の説明はどうなるんだ？』

和泉希。転校生。和泉グループの令嬢。

「短っ！！！」

『俺の情報網でもこれしかわからなかった』

「て、お前が調べとったんかい！」

「この前、俺に調べられないことはないって言ってなかったか？」

『俺にも不可能はある。というより、和泉に関する全ての情報に規制がかかっていて、更に重要機密扱いとなっていて何一つ調べられないんだ。警察庁のデータベースにも情報があるらしいのだが、それも超厳重に保管されていて、長官補佐以上じゃなければ閲覧できないという機密さだしな』

「なんやそれ！　凄いな！」

『所謂、国家機密扱いだ』

「本当に俺達と同じ高校生か？」

「ホンマやなぁ。なんや、A組の中谷さんより凄いわぁ」

『次回に続く』

「え？」

## 第3話

「ん？　どないしたんや？」

「ううん。見て、コレ」

「何や？」

ヒメコにあるマンガ雑誌を手渡した。

『あの新人マンガ家、早乙女ロマン先生のセカンドデビュー作品！！！』

「何やと！？」

「ねー。凄いよねー」

『ふむ。とうとうロマンがセカンドデビューしたか』

「すごいな～、ロマン」

「あれ？　ボッスン、どうしたんや？」

「ああ。疲れて死にそう」

よくよく見てみると、背景がいやにリアルだった。

「・・・。背景だけプロ級だ」

「うっわ。ホンマや」

「王子ー」

ロマンが背景もとい壁を突き破って部室に入って来た。

「おお。ロマンやん。デビューおめでとう」

「あ、もう知ってたの？」

「ああ。さっき雑誌を見てな」

「どう？」

「おめでとう、ロマン」

「ありがとう」

「ボッスン、いる？」

「ん？　キャプテンじゃねーか。どうしたんだ？」

「じゃあ王子、私はこれで。この感動はいつかまた分かち合いましょう」

そう言うと、ロマンは部室を後にした。

「どうしたんだ？　キャプテン」

「うん。実は・・・」

「何だよ、言ってみろよ」

「う、うん」

～説明中～

「なるほど。最近ハマっているミックスオレの缶についている応募券をやっとのことで5枚集めて、葉書きに貼っていざ送ろうとしたら、風で飛ばされてしまったので一緒に探してほしいということか」

「何や、いつものアメシリーズかと思ったのに、少し残念やな」

※アメシリーズに関しては、原作を読めばわかるよ☆

## 第3話（後書き）

眠いので、今回はここまでです。次回は、「キャプテンの依頼」とその他でお送りしまーす。

脳内でスケダンのＥＤを流してください（笑）

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1659y/

SKET DANCE！

2011年11月25日23時56分発行